

R-18



- utsusemi -

う
つ
せ
み





某月某日、
紅魔の主従が
屋敷へ進入
迎撃の後捕獲、

薬の実験台
としてなぶり
イナバ小屋に放す
…が、

お願いしますっ

従者、十六夜咲夜は
意識があるのか
いまだ抵抗を
続けていた…

お嬢様…

お嬢様を
放してくださいっ

…ばかね

お嬢さまを
放してええっ

放してえっ

放してえっ

忘れてしまえたら
楽になるのに



永琳…始まるわ

私たちの夜が

付き合ってくれ…？

最後まで

ええ、

彼女に一生を
捧げると決めた
あの時から

私の言葉に
偽りなど
ありません

はい…

姫のお望みとあらば

でも…

この時
私が作った薬が
輝夜を破滅へと導くとは
私は知る由もなかった

あの娘は
穢れを飲んだ！

処刑
すべきだ！

自分と同じ眼をした輝夜



永琳

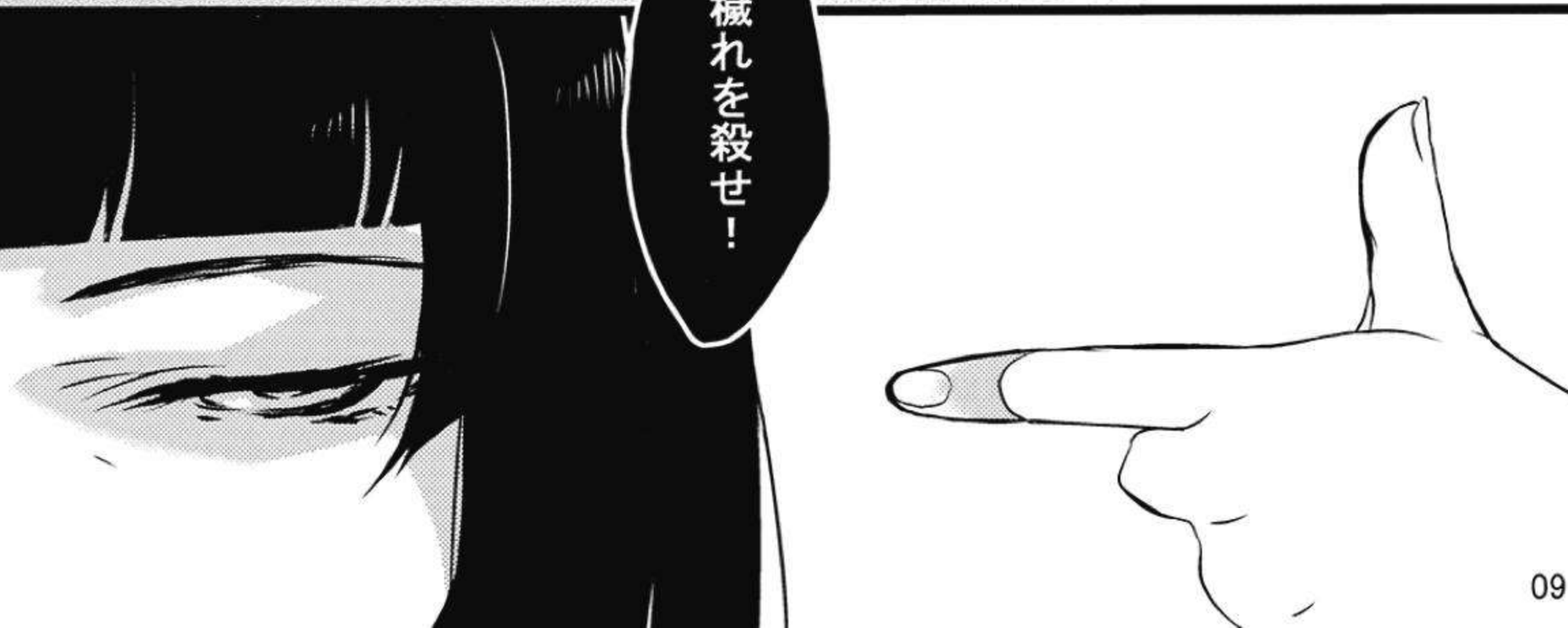
幸せに
なるんだよ…

殺せ！

殺せ！

穢れを殺せ！

フヤキッ



110
P
i

幸せになって、と言ってくれた彼女に
一生を捧げると決めたあの時から
私たちはずっと一緒だと信じていた…

拷問には2種類ある

- 1) 有益な情報を吐かせることを目的としたもの
- 2) 執行人の趣味で行うもの

禁薬・蓬莱の薬を服用し不老不死となった輝夜は
悪趣味な豪族たち、役人の格好の玩具で
薬を飲んだ罪とは関係のない
「執行人の趣味で行う拷問」を幾度となく科せられた

輝夜は何度も私の目の前で殺された
私は何度も友達が目の前でむごたらしく殺されていくのを見た

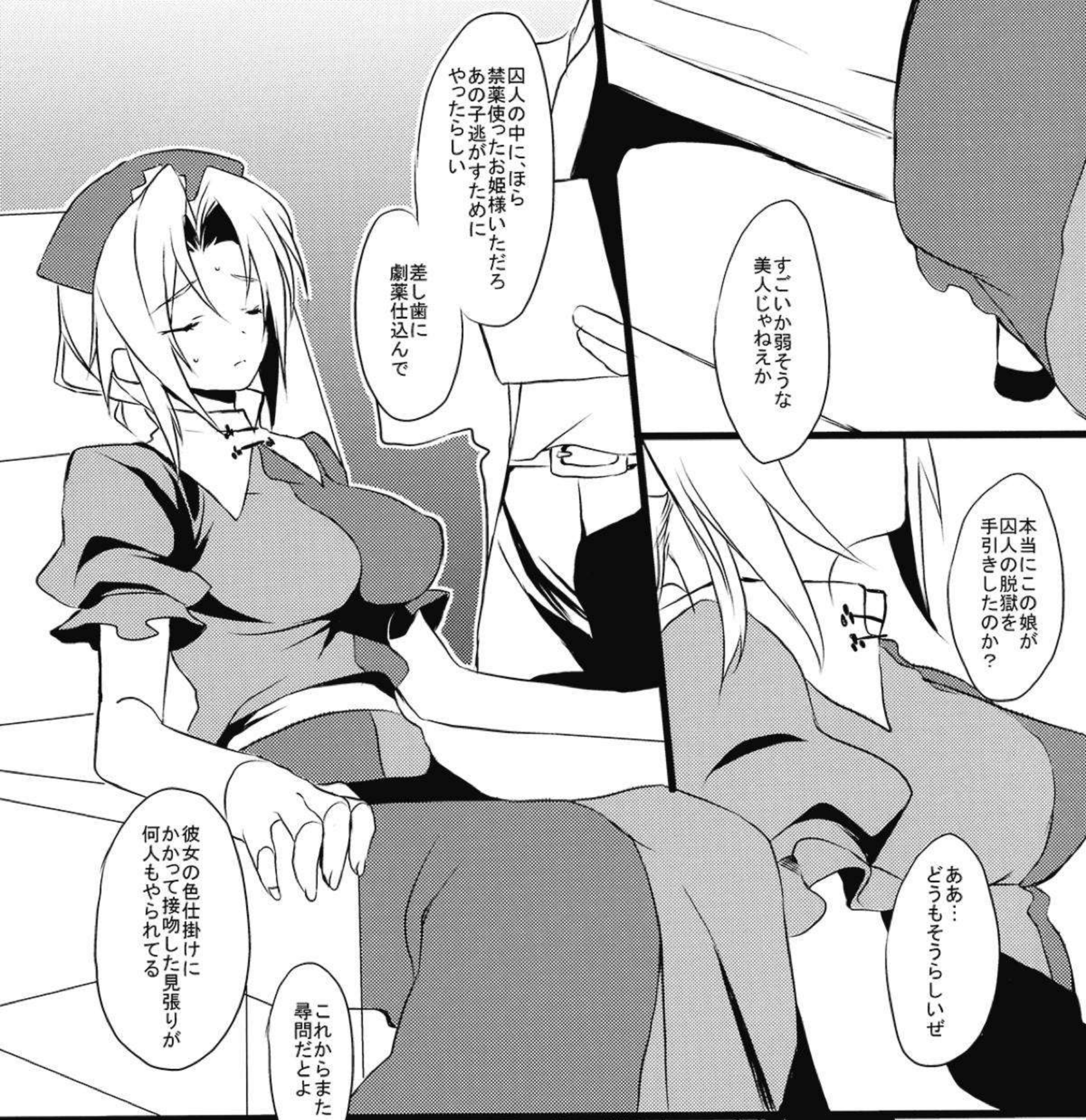
”私の作った薬”で”親友”が
目の前でむごたらしく殺される光景を、私は何度もこの目で見た

耐えられなかった

私は輝夜を逃がす事を決意した

もう薬の効かないこの体に、劇薬を仕込んだ夜だった

ノノノノノ



すこいか弱そうな
美人じゃねえか

囚人の中に、ほら
禁薬使ったお姫様いただろ
あの子逃がすために
やったらしい

差し歯に
劇薬仕込んで

本当にこの娘が
囚人の脱獄を
手引きしたのか？

ああ…
どうもそうらしいぜ

彼女の色仕掛けに
かかって接吻した見張りが
何人もやられてる

これからまた
尋問だよ

しかし綺麗な顔
してらあ…
今から身も心も
全部ズタズタに
されるとも知らずに…

ああ…
かわいそうにな…



お目覚めの所
申し訳ないが…
さつそく身体検査を行う

気が付いたかね？
八意永琳

…「」は…？

調べやすいように
少々衣服を
肌けさせてもらおうよ

そうだ…
よく見えるように

ああ、そうか…私
背後から撃たれて…
それで…



これはこれは…
清纯そうな見た目とは裏腹に
なかなか際どい下着を
つけておるな…

マン毛もポーポーで
生え放題ではないか

なかなか
期待できそうだ…

おっ

なっ

不服そうなの
顔をしておるな
：しかし

こちらとしても
体内に劇薬を仕込んで
単体乗り込んでくるような女を
無警戒でさらせばらせておく
わけにもいかん…

殺されては
たまったものでは
ないからな…

何を、
するつもりですか…

なあに、ちよつと穴という穴を
ほじくり返すだけだ…

君が他の薬を
隠し持っていないかどうか
身体検査をする、
至極当然の事だろうか？

その通り…
察しがよくて助かる

だが、
抵抗すれば…

輝夜の身の安全は
保障しないという事ですか

こいつ…
分かかって
言ってる

私がNOと
言えないって…

検査が終わったら
尋問の後釈放…
それまで暫く耐えれば
簡単な事だ



さて…

まずはコイツで
穴が開きやすく
なるように
ほぐしてやろう…

おい

誰か
この女の子の様子を
録画しておけ

そつ…そんなもの
身体検査に
関係ないでしょうっ！



そう言う割には肉芽がぶつくりと
そそり立っているではないか

あ

あ

あ

やだ…

^^…

やっと俺たちの
出番だな

心配しなくても突起しごき用の
ハブラシも完備されている
存分に味わうがいい



おやおや：
こちらは真面目に
身体検査をしている
というのに…

あああああ！！！！



ガクガク



すげー
泡立ってきた

穴ピクピク
してるよ



なんだこの
粘ついた汁は？
どんだん溢れてくる
じゃないか…



ほうらケツ穴も
綺麗にしようなあ

ははは、いいぞ…
全部の穴が開ききるまで
この女を休ませるな！

かお

KOKO

おらっ

あおお

3本分の振動
ま●こ肉で
味わうんだよ!!

ちよつとー?
シヨンベン臭いん
じゃないのー!?

おい
足閉じたら
見えないだろう

誰か足
広げさせる

うわっ
少しづつ
漏らしてるよ

ちよつどいいや
こいつが漏らすところ
全員で見てもうせ

見ないでええっ!

あああ:
見ないでっ!

そらそらあ
漏らせ漏らせ!



ああああ
膀胱はダメエ……!

……うるさいぞ
少し黙らせる

はっ!

ビクン
ビクン



あああ……
本当に、
すごく汚れてる
このチ●ポおお……!

好きだろう……
この臭い
今しやぶらせてやる

さあ雌の大好きな
汚れチ●ポだぞ

歯えるんだ

歯を立てるなよ……
姫の命がどうなっても
知らねえぞ……

ヒッヒッ

ヒッヒッ

ヒッヒッ

よしよし…
たっぷり喰え

だ、だめ…こんな
雄臭い汚れチ●ポ
見せ付けられたら…

上手におしゃぶり
できたら
もつと気持ちいい
勃起させてやるよ…

雌になる…！
私雌に
なっちゃう…

お…おほおほ…
チ●カスの臭い
すこおほ…！
口いっぱいチ●ポ
全部チ●ポ
おほおほ…！

れる

れる

おおおッ…
ぬめついた舌が
射精を催促してくる…

お、美味しい…
チ●ポ
たまらない…
ああああ
雌になる…

ぶっ…ぶっ…

乳首ギンギンに
勃起させながら
雌堕ちしちゃう…
私の体がチ●ポ
求めちゃう…！

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ
ちゅっ

しゅっ
しゅっ

乳首…、長いつ…
エロい…！
こんなんすぐ
出ちまいそうだ…！

あああゝゝ……
おしっこ……
おしっこ出そう！
下半身、ブルブルされて
力が入らない……！

ぎやはは
もうマ●コ
ビチヨビチヨだぜ
何の汁か
わかりやしねえ！

尿道痙攣してる！
漏らすぞ！
コイツ漏らすぞ！

しっかり足おさえとけ……！

あああ漏れちゃう！
おしっこ漏れちゃう！
人に見られながら
おしっこ漏らしちゃう！

そらいけつ！
メス肉棒絶頂しろ！

漏らしながら
メス肉棒絶頂しろっ！

イヤアアア……！
おしっこ出るっ！
もう出るうっ……！



ああああ

ああああ

ああああああああ

アアア

アアア



……
ここに薬はなかった
ようですね……
となると残りは……



ああああああ

ああああああ

アアア

慎重な仕事だ、わしが自ら
取調べを行うとしよう…
この使い込まれた黒肉棒で
今からたつぷりと雌穴を
ほじくり返して
やるからもう

この穴しか
ないだろうなあ…？

イヤあ…っ！
私の腕よりも太い
チ●ポがっ…！！

ああああ！
痛いっ！
痛いっ！

痛いなんて嘘は関心せんなあ…
こんなにもチ●ポを求めて
膣内がひくつかせて
おるではないか…

何もしなくてもどんどん
チ●ポがマ●コ肉に
包まれていくのが
何よりの証拠だ

おちや…
おちや…

それとも痛いと言って
子宮を調べさせない
つもりかね？

先生、怪しいですね…

うむ、

さっそく
チ●ポで中を
調べなければな…

そんな…待って…
待ってええ…

おらっ
口がお留守
だぞ!

こっちも
しゃぶれ!

オイ
放すな!

脳天まで
プチ抜くぞ
コラア!

それなら私がケツ穴から
子宮を押さえますよ

!?

どうですか
先生…?

何かありそう
ですか?

ふうっ…ふうっ…
膣には何も
ないようじゃが…

子宮がうまく
こじ開けられんわ



ちよつと失礼



なんだこの雌豚

ま●こほじられた時より
ケツにフイスト喰らわされた
時の方がえぐいアへ声
出してンじゃねーか

んえっ

ほっ

いちゃっ

いちゃっ

いちゃっ

自分から腰を突き出して

子宮で完全に密着した
肉棒を味わってやがる……!

いちゃっ

いちゃっ

いちゃっ

いちゃっ

なんだ…結局
他に薬はないのか…

ならばご褒美に
子宮をザーメンで
破裂させてやろう

もちろん逃げられないように
子宮ごとチンポをしごきなごらな…

いちゃっ

いちゃっ

いちゃっ

おおおおお
射精るっ！

そらいけっ！
雌豚イけッ！

雌豚に種付けする
ぞおおおお……！

あの頃は
いつまでも一緒に
いられると思ってた

でも今は
こんなにも2人は
バラバラで……

射精るッ！
射精るッッ……！



あーあ：
汚ねえの

こりやあ暫く
使い物にならねえな

マ●コもケツ穴も
完全に伸びきつてらあ

いいだろ別に
囚人だし

こいつもどうせ
あの輝夜とかいう女と
同様死ぬほど
実験台にされるんだ

そのうち頭
おかしくなって
何も感じなくなるさ

親友だか何だか
知らねえけど

輝夜に関わらなければ
こんな事にならずに
済んだのに…

ほんと

「忘れてしまえたら
楽になるのに」な

忘れられるわけがない
薬を作ったのは私なのだから…

…りん

永琳…



…あの主従は？

ああ、それなら
グチャグチャに
なってるわ…

最後まで抵抗してた
従者の方も堕ちて

もう『お嬢様』と
発する事は
ないでしょうね…

全て順調よ

でも従者は主を
助けられなくて…

同じ光景を
見た気がするの
主と従者がいて

…夢に

罪の痕

あのを従者
十六夜咲夜

それはまるで抜け殻のように
あの時のままの姿で、変わらずにそこにあって

誰かに似ている…
と思っただけだ

作った者にとっても、使った者にとっても

誰だったかしら
案外思い出せない
ものね…

一生背負っていかなければならない重い罪になる

…そっか

消えることはない



きり

きり

悪い夢
だったのよ...

それは、

いつまでも、いつまでも、残り続けるのだ

この美しくも残酷な現世(うつせみ)に

永琳…始まるわ

私たちの夜が

付き合ってくれる…？

最後まで

……

彼女に一生を
捧げると決めた
あの時から

私の言葉に
偽りなど
ありません

はい…

姫のお望みとあらば

どうまでも…

…あつては
いけない

ウツシセロハ

2009年12月30日 コミックマーケット77 発行

super:nova / 雪町灯之助


<http://sprv.blog116.fc2.com/>

表紙印刷：松本コロタイプ様

本文印刷：SSP様

アシスタント：実妹

今後はアシとして教育を行いたい所存です。
妹ありがとうありがとう。今度ヘタリアていうか米英絵でも描くよ！



おつかれさまでした
なかなか言いたい事を伝えるのが難しい題材なんです
が「永琳と輝夜の間にある、目には見えない溝」
みたいなものを感じてもらえれば嬉しいです。

輝夜と永琳は他の東方主従と違って従者の方が実力が上で
しかも従者は主を越えないように自発的に
普段から力をセーブしながら生活している、という設定が
負の要素満載でたまらなく好きです。

2人の信頼関係は本物だと思いますが
永琳は薬の件で未だに罪悪感を感じてるんじゃないかと思うんですね。
それと輝夜に対しての若干の不信感。
だから輝夜がいくら「いいんだよ、永琳は悪くないよ」
といったところで「こんな私が許されていいわけない」
ってなっちゃうんじゃないかなと勝手に妄想したり。
もちろんそういう顔をするのは輝夜の前でだけです。

しかしありえない作業ペースで作ったので
どうしても出したい本だったので諦めずに出そうとがんばりました。
満足に時間が取れずに仕上げたので
お見苦しい所も多々あるかと思いますがなにとぞご容赦くださいませ。
これの輝夜視点の本もいつか出したいと思っています。
(出す出す言っ出て出してない本を全部出したら…^ω^;)

それではお付き合いいただきありがとうございました。
ちょっとでも面白がっていただけましたら幸いです。

雪町灯之助







s u p e r : n o v a